

6月日銀短観の予想～現状判断は小幅改善も先行きに慎重

国内の経済動向や経営環境の改善を反映し、現状判断は小幅改善の見込み。但し、世界経済の先行きや欧州債務問題を受けた金融市場の不安定化に対する懸念から先行きには警戒感が現われよう。そうした警戒感を反映し、大企業の設備投資計画も慎重なものになる可能性が高い。

7月2日に6月調査の日銀短観が公表される。調査票の回収は公表日直前まで行われるが、日銀が設定した回収基準日は6月12日であり、欧州債務問題に対する警戒から金融市場が不安定化した時期と言える（今も安定はしていないが）、企業は、復興投資など政策寄与もあり緩やかに持ち直しつつある国内の経済動向及び経営環境、不透明感の高まりつつある海外経済の動向、欧州債務問題を受けた金融市場の変動に対する懸念、を考慮して短観に対して回答していると考えられる。

当社では、1～3月期に企業業績が明確に持ち直し、かつ4～6月期の国内経済も回復基調を維持していることを踏まえ、企業の現状判断が3月対比で小幅改善していると予想する。すなわち、大企業製造業の現状判断DIは3月調査の4から2へ、非製造業も5から6への改善を見込む。中小企業についても、製造業が10から8へ、非製造業は11から10へ、いずれもマイナス圏にはとどまるがマイナス幅は縮小すると考える。但し、上述した海外経済や欧州債務問題に対する懸念から、先行きに対しての警戒感は3月調査時点より寧ろ強まっている可能性が高い。加えて、エコカー補助金などの政策効果終了に対する備えも踏まえれば、先行き判断は明確に下方方向を向くと見込まれる。大企業製造業の先行き判断が4（現状判断2）、非製造業は3（同6）と予想する。

先行きに対して慎重な企業の景況感を前提とすれば、設備投資計画についても強気な内容は見込めない。当社では2012年度の大企業全産業の設備投資計画を前年度比1.8%と予想する。この伸びだけを見れば、3月調査の0.0%から上方修正だが、実際には2011年度が3月調査（実績見込み）の1.1%から6月調査（実績）で1.1%へ大幅に下方修正されると予想されることの影響が大きい。つまり、伸び率計算の発射台の下振れと設備投資の先送り分の計上による上方修正であり、投資意欲の高まりを反映しての上方修正ではない。なお、業種別には、製造業が2011年度2.3%、2012年度4.5%、非製造業は0.5%、0.5%と予想する。一方、中小企業全産業については、3月調査の12.9%が6月調査では9.7%へ、例年通りの上方修正パターンを予想する。なお、6月調査時点としてはマイナス幅が小さく、最終的には（前年度の減少率が大きい反動もあるが）プラス転化が見込める計画とは言える。

日銀短観6月調査の予想

業況判断DI	前々期 実績	前期 実績	6月調査の予想		変化幅	
			現状	先行き	前期 現状	現状 先行き
全規模	7	6	4	7	2	3
製造業	5	7	5	8	2	3
非製造業	7	5	4	7	1	3
大企業	0	0	2	1	2	3
製造業	4	4	2	4	2	2
非製造業	4	5	6	3	1	3
中小企業	12	10	9	13	1	4
製造業	8	10	8	12	2	4
非製造業	14	11	10	13	1	3
設備投資計画	2010年度 実績	2011年度 実績予想	2012年度		2012年度 前対比	
			3月調査	6月予想		
大企業	1.9	1.1	0.0	1.8	1.8	
製造業	3.5	2.3	3.6	4.5	0.9	
非製造業	1.0	0.5	2.0	0.5	2.5	
中小企業	2.0	5.9	12.9	9.7	3.2	
製造業	9.8	5.5	18.8	15.1	3.7	
非製造業	1.6	11.8	9.1	6.3	2.8	

（出所）日本銀行